

アナフィラキシーの応急処置 (First Aid for Anaphylaxis)

軽度から中等度のアレルギー反応の例

- 顔、唇や目のむくみ
- じんましんやみみず腫れ
- 口のしびれ
- 腹痛、嘔吐（このような症状は昆虫アレルギーが誘因のアナフィラキシーの症状と考えられます）

軽度から中等度のアレルギー反応に対する処置

- 昆虫が誘因のアレルギーの場合は刺さっている毒針が見える場合はすぐ取り除く
- マダニが誘因のアレルギーの場合はマダニを凍らせて自然に取り除く
- アレルギー反応を起こしている者のそばを離れず、助けを呼ぶ
- アドレナリン（エピネフリン）自己注射薬の有無を確認する
- 両親・保護者その他の緊急連絡先に連絡を取る

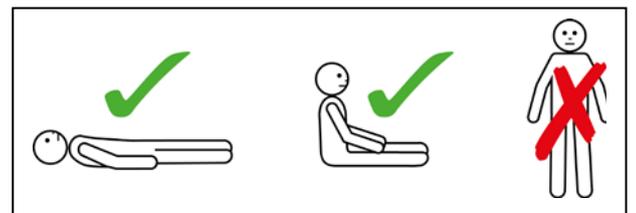
軽度から中等度のアレルギー反応（じんましんやむくみなど）がアナフィラキシー（重度のアレルギー反応）に先立っていつも現れるとは限りません

次のようなアナフィラキシー（重度のアレルギー反応）の症状が見られるかどうか注意

- 呼吸困難・ゼーゼーいう
- 舌の腫脹
- 咽喉腫脹・咽喉絞扼感
- 喘鳴・咳が止まらない
- 発声障害・嘔声
- めまいが続く・失神
- 蒼白・力が入らない（特に幼児）

アナフィラキシー（重度のアレルギー反応）に対する処置

1 患者を仰向けに寝かせる。
立ち上がったたり歩き回らせないように
意識がない場合は回復体位にする
寝かせると呼吸が困難な場合は座らせる



2 アドレナリン自己注射薬を使用する

- 3 救急車を呼ぶ（オーストラリアでは電話 000、ニュージーランドでは電話 111）
- 4 両親・保護者その他の緊急連絡先に連絡を取る
- 5 最初の投与後5分しても患者に反応がない場合はアドレナリンの2回目の投与を行なう
- 6 病院に搬送し最低4時間の医学的観察を行なう

どうしてよいかよくわからないときはアドレナリン自己注射薬を使うこと
患者に反応がなく呼吸に異常が見られるときはすぐに心肺蘇生（CPR）を始める

喘息や食品・昆虫・薬剤に対するアレルギーがあるとわかっている患者が突然呼吸困難（喘鳴・嘔声・咳が止まらないなども含む）に陥った場合は、皮膚症状が現れていなくても

常にまずアドレナリン自己注射薬を使い、その後で喘息緩和薬を使うこと